

"デイケア再開" 生協いいの診療所より

【3月24日(木)】巨大地震から14

日目、静かに夜が明けた飯野町は今朝もガソリンスタンドに給油を待つ車の列です。当初は医療支援もままならなかった周辺の町の避難所は今ではさらに福島県外に去ってガランとしています。

この二週間、診療所は暦どおり・時間どおりに外来を開き在宅医療も継続してきましたが、デイケアについては停電・断水・ガソリン不足をはじめとする様々な困難のために休止しました。しかしその間もデイケアスタッフが再開を待つ利用者さんのためにと安否確認・病状の把握・定期薬などをチェックしてきました。そして送迎用のガソリンやお昼ご飯を調達して今日の再開にこぎ着けました。利用者さんどうし「あっかなかったネ」「生きてて良かったネ」と再会をよろこびあっていました。送迎で会った家族も「デイケアを待ってました」「私もガソリンが無くて」など・・・おおかたは家の中に閉じこもってデイケアが再会するのをただじっと待っていた毎日だったようです。離れた親類宅に身を寄せていた利用者さんも数人いましたがその理由はほとんどが停電・断水などによる生活困難のためのようでした。生まれて初めての大きな地震はあっかなかったものの原発事故から避難するつもりはまったくないようでした。

しかし診療所に近い飯野町民体育館は100人ほど、長期化する避難所生活となっています。わたり病院へ救急車で入院した小児は6日後に退院してきました。そのおじいちゃんは糖尿病でインスリン注射を続けています。その他にも、寝たきり患者さん、慢性疾患、臀部膿瘍、花粉症、さながら地域医療のフィールドが一つ増えたようになってきました。

来週からはケアマネ ジャーからも要望のある「避難所生活からのデイケア利用」にも取り組む準備に入ることにしました。

(所長・松本純)

